

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	HARVEST			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士や理学療法士など各専門職を中心とした、お悩みや困り事に対して根拠のある支援の提供をしています。お子様には担当者を配置しますが、担当者の意見に偏ることがないように職種異なるスタッフを配置し多角的にお子様の様子を見ていけるよう配慮しています。	専門性のある職員が評価検査の実施と結果の解釈をします。それらに合わせた個人の具体的目標を設定しています。そこから、目標に合わせた段階的なアプローチを展開しお悩みの解決を目指しています。さまざまな専門職者が1人を見ることが、多角的な対応が可能となっているところが強みです。	職員の個々の能力と全体的な内容やシステムの底上げや強化をするために定期的な内部研修会を実施しています。また、子をケースと捉えてカンファレンスやお悩み相談などをチーム内で実施しています。今後はそれらに合わせて、外部講師の研修をしたり各専門職が相談対応するシステムの導入などでより充実した取り組みにしていきたいと思ひます。
2	就学前のお子様に対し、就学に向けて手厚い対応を心掛けています。一般的に就学に向けて必要とされる能力や機能はもちろんですがお子様ひとりひとりのお悩みや困り事に対して何が必要であるか何をしたいかなどを考えて対応しています。	就学前に必要な機能や概念、能力の検査評価を行いお子様の現状を把握し共有しています。また、子に合わせた就学向けのカリキュラムの実施をしています。就学に向けた保護者様対応（保護者向けYOUTUBE動画配信、個別面談など）を充実させて就学への不安点を解消していく対応をしています。就学先に向けた情報提供書の作成を行い、就学先や新しい居場所（学童や放課後等デイサービスなど）での安心して過ごし始められるように支援しています。就学後の関係機関との連携を行い、必要であれば就学前会議を開催しています。	お子様と保護者様がより安心して就学できるような取り組みを模索してまいります。インクルーシブ教育が推進される中で、特別支援学級のあり方などにも変化が出てきています。時代の変化にもアンテナを貼り、情報を入れていく中で療育内容や保護者様への提示なども修正していきたいと思ひます。
3	各関係機関と連携し、包括的な支援を実施しています。園や関係機関での問題に対しては課題の整理を行い、対話を主とした包括的な取り組みを実施しています。	お子様の状況に合わせて、園や病院機関と連携しています。園とは、対面でお話ができるように時間を設けて情報共有をしています。必要があれば、事業所に出向いていただき様子を見ていただく相談支援をさせていただいております。お子様によっては、保護者様と園の担任教員や保育士と連携ノートを作成し文章でのやり取りも実施しています。病院機関では、担当医師と保護者様を通じて情報の交換をしております。	園によっては連携に後ろ向きな場合があるため、どのように介入していけば互いのメリットになるか模索しています。相談支援員と共に園への見学に行かせていただいたり、保護者様を通じての情報共有など手立てを変えて対応してまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	フロアの広さやバリアフリー面など環境的に課題があります。集団でダイナミックな動きのしづらさがありますが、物品の配置をかえたり人数的な配慮をさせていただいております。段差の昇降などは、スタッフが付き添いリスクマネジメントを行いながら移動支援の対応をしております。	限られた広さのなかで療育物品があり、マンツーマン以上の支援を実施しているがゆえの人員的圧迫も影響していると考えています。逆に限られた中だからこそできることがあり、お子様のニーズに沿った支援ができていたことも多くあります。多くのニーズがある中で、それらに応えられるような多様な支援のあり方も模索してまいります。	物品の整理や、置き場の工夫をさらに改良してまいります。必要があれば、利用児童数のコントロールで人員的な圧迫を減らし、より有意義に空間を使った療育活動が出来るようにしていきます。よりダイナミックさが必要である活動を行う場合は公園や運動場など地域の資源を活用しながら行っていくことも検討してまいります。
2	地域や近隣施設との関わりが少なく感じており、自社イベントや地域イベント含めて繋がりの薄い印象があります。	感染症の制限が無くなったタイミングで地域のイベントなどへの参加は検討していましたが、日程などのタイミングや児童の状況を鑑みて先送りになっていたところがあります。自社イベントを考えていくなかでも、近隣施設などと交流する機会を設けられるよう関係作りから進めていけるよう努めます。	周辺地域のイベント事に関しては、子どもたちが無理なく参加できるものを通じて企画してまいります。近隣施設との関わりに関しては、災害時の動きの共有を行う機会を設けるなど連携できる体制を整えていきたいです。自社イベントにおいては、開催地域や参加人数などの参加条件をより応募しやすいうように制限を緩和できればと考えています。
3	保護者様同士が上手く情報共有をしたり、保護者間で関わられるような後押しが出来ていない部分があります。保護者間でのコミュニティが少ないと感じている反面、各保護者様の思いや考え方も違うためニーズに合わせた対応の難しさも感じています。	保護者様ひとりひとりで違う考え方を持っており、保護者コミュニティ自体を望まれる方とそうでない方がいらっしゃるのも現状です。自社では、保護者様とお子様と一緒に参加するイベントなどを通じて関わる機会を設けてはいます。各保護者様のニーズに応えることができるように、希望者を募って参加するものなどを企画することも必要であると考えています。	自社で行っている「屋外活動イベント」において、お子様主体のイベントに保護者様の関わりという目的を作ることを検討しています。まずは、そういったニーズがあるかなどアンケート聴取から進めていければと思います。お子様に新しい経験を積んでいただく目的の中に、子も親も共に成長できるような目的をもった活動を今後は提供出来ればと思います。

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	HARVEST GAT		
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日	～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日	～	令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士や保育士など、様々な専門職が支援員として在籍しています。そのため、専門性を活かし、それぞれのお子様の状態把握と支援を提供させていただいています。	専門的な知見を療育に反映できるように、定期的に検査・評価を行ない、そこから得られた結果をもとに療育を行なっています。また、日々支援員同士で情報交換や療育の検討を行うことで、より質の高い療育が提供できるようにしています。	さらに充実を図るための取り組みとして、専門職の視点や知識を支援員同士で共有し、実施できるようにしていきます。同法人内には、作業療法士や言語聴覚士も在籍していますので、日常生活動作や言語面においてもフォローができるように連携を図り、様々なお悩みに対応できるように努めていきます。
2	1日のスケジュールの流れの中で、集団活動を企画しています。週替わりで「ゲーム」「運動」「工作」「SST」とテーマを決めて、様々な活動を経験していただく機会を設けています。加えて、避難訓練や感染予防、熱中症などお子様の危機管理を高める活動も行っています。	各テーマに沿って活動を企画するうえで、心身機能の向上を促すために新しい活動を日々企画しています。また、お子様が楽しんで取り組めることも大切にしておりますので、夏は夏祭り、冬はクリスマス会をテーマにするなど、季節に合わせた活動を企画し、楽しんで参加していただけるような工夫をしています。	日々の活動において、同法人内の事業所と情報共有を行っています。事業所間で活動内容を共有することで、新たな視点に気付くことができたり、活動に深みが出てくると考えています。
3	当社では2か月に1度「屋外活動」というイベントを企画しております。普段の事業所内では経験できないような様々な体験をしていただくことで、心身機能の向上とお子様の興味関心が広がるきっかけとなるように取り組みを行っています。	同法人内の事業所と合同で行っていますので、普段利用している時に関わる方だけでなく、様々な方と触れ合う機会となります。社会性を育む機会となるようにリーダーなどの役割を作ったり、お子様が積極的に参加できるような工夫をしながら企画しております。	通年行っている企画に関しては、屋外活動を企画するチームを中心に、前年度の取り組みを元にブラッシュアップしながら企画しています。また、新たな企画を生み出せるように日々情報収集を行っていきます。お子様が楽しく様々な経験を積めるような企画や親子で楽しめる企画など、幅広く検討していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所では学習スペースや活動スペースを設定し療育を展開しておりますが、完全な個室がないため環境面の配慮が十分に設定することが難しいことがあります。	お子様の中には、視覚刺激や聴覚刺激に過敏な様子があることで課題に集中しにくいお子様がおります。個室などの環境を設定することで様子の変化が見られることもありますので、可能な範囲で刺激を調節し、お子様が学びやすい環境を整えて実施したいと考えています。	完全な個室はありませんが、環境面に配慮が必要なお子様に対しては、パーテーションやカーテンなどを使用し、周囲からの刺激が最小限となるような工夫をしています。また、ご自宅や園・学校などの情報を共有させていただき、環境による違いについても評価しながら進めていきます。
2	地域の他のお子様や事業所との交流の機会が少ない印象がありました。	当社のイベントとして、2ヶ月に1度「屋外活動」という事業所外でのイベントを実施しておりますが、開催日程やお子様の状況、開催場所の関係から地域でのイベントへの参加や、地域のお子様と交流の場として開催することが難しい状況です。	昨年末に実施した「屋外活動」において三重県総合文化センターのホールを使用しイベントを行いました。今後は、地域の施設を利用させていただき、地域に開かれたイベントの開催を検討しております。イベント内容や運営方法を検討しながら、事業所を利用されているお子様、地域のお子様と交流する機会となり、保護者様を含め満足していただけるようなイベントの開催を検討していきます。
3	当事業所には様々な職種の職員が在籍しており、職種により得意分野や経験に違いがあります。それぞれが専門的な視点を持つことは強みではありますが、専門用語や専門知識に対する職種間の相互理解が難しいこともあります。	支援の場面や支援前後に職種間で意見交換を行っています。実践経験の違いなどにより、考え方や理解の仕方に違いがあります。多職種間で使用できるマニュアルの作成や、相互理解に繋がる意見交換の場を多く持つことが必要であると考えています。	当社では2か月に1度、事業所全体での研修の場を設けております。研修においては、各職種の専門分野に関する勉強会を開催し、職員全体の知識や技術を深める機会としています。このような研修の場を活かし、職員同士がそれぞれの専門的な知識や技術を共有し、相互理解を深めながら療育の質の向上に繋げていきます。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HARVEST BASEWORKS			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44名	(回答者数)	39名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	現在当事業所には、理学/作業・言語聴覚士が常駐していません。そのため、療育や発達の悩み、困りごとに対して専門的な視点を持って対応することが可能です。園や学校での問題に対しては課題の整理を行い、各関係者との対話を主とした包括的な取り組みを実施しています。人員配置にも余裕を持っており、必ずお子さまと1対1以上に対応ができるように心がけています。	担当者だけの意見に偏ることがないように、職種の異なる担当者をつけ、様々な方向から子どもの様子を見ていけるように配慮することを心がけています。療育の実施前後において、おさまの様子を情報共有する時間を設けています。その際には、子どもたちの『できている部分』に着目してアドバイスをを行うようにしています。	充実を図るための取り組みとして、現在専門職が職員の悩みを解決する時間を作っています。また、年々内容が向上するよう、マニュアルの見直しを行い、人材育成が停滞しないような工夫を実施してまいります。
2	全職員での研修及び会議を設けています。研修や会議では、療育の悩みについて話し合い、意見の交換の場として有効に活用しています。悩みを一人で抱え込まずに解決する場、意見がもらえる場であることで、子どもたちへの向き合い方が変わる場を提供してまいります。	会議においては、療育での悩みや困りごとを解決するだけでなく、各職種間での知識や技術を向上させていくための話し合いを行っています。外部講師を呼んだり、職員が自身の専門性を伝達することもあります。	勉強会や研修などを単発的にならないよう、年間スケジュールや目標を制定し実施しております。
3	標準化された評価の中から選定し実施しています。選定された評価を職員全員が一定の方法でできるよう情報共有なども行っています。	当法人においては、全職員が研修や会議にて、評価の使用方法・目的・実施・結果・考察及び解釈などを統合して検討しています。支援の方法が分からない方においても、1から分かるように学べる研修や機会を豊富に設けています。	標準化された評価を全員が正しく使用できるようにしています。そのためのマニュアルも準備してあります。また、職員が使いやすいように評価用紙のアップデートなども行っています。引き続き、評価の一定水準を保つための指導やどのような支援に結び付けていくかなどを勉強会や研修などの機会を設けてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベントを行う中で園や小学校といった地域や自治体と繋がるイベントの企画が少ない	事業所のイベントとして、地域で行われているイベントへの参加も検討していますが、日程調整や児童の状況、お住いの圏域などを考慮すると全ての児童が参加することは非常に難しい状況です。引き続き、地域や自治体で行われているイベント情報を収集していきます。	活動・イベントにおいては、開催地域の選択、参加人数の増枠、イベントを楽しめる年齢など参加条件を緩和することで、より多くの方にご参加いただけるよう事前準備や調整などを行ってまいります。
2	保護者間で繋がりを持てるイベントが少ない	ご利用を頂いている保護者様の中で、保護者間の繋がりを求められる方もいらっしゃると思います。しかし、繋がりを求められない保護者様もいらっしゃると思います。保護者様自身が参加の可否を行い、保護者様間の繋がりをもてるような企画をしていきたいと考えます。	現在2カ月に1回『屋外活動』を実施しております。このイベントは、保護者様のご参加も可能なイベントでもあるため、今後、保護者様で話し合いが持てるような機会も設けていきたいと考えています。
3	新規採用職員に対するの事業所内での伝達や業務内容の統一化に対して	当事業所では、支援員の所有資格や各々違います。そのため、発達支援を行う際の考え方も異なります。PCDAサイクルを意識し業務に当たっていきます。	現在、新規職員に対し、療育と業務に関してのマニュアルを作成し、実施しております。また、実施した指導が理解しやすかったか難しかったかも確認し、マニュアルのアップデートを行っています。引き続き、おさま・保護者様、地域連携機関に「高い専門性」を提供できるように努めてまいります。

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HARVEST UNITE			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数)	39名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職が常駐しています。そのため、療育や発達の問題や困りごとに対して専門的な視点を持って対応することが可能です。園や学校での問題に対しては課題の整理を行い、各関係者との対話を主とした包括的な取り組みを実施しています。人員配置には余裕を持って必ず児童と1対1の対応ができるように心がけています。	療育の実施前後において、お子さまの情報共有をする時間を設けています。その際には、子どもたちの『出来ている部分』に着目してアドバイスをを行うようにしています。担当者の意見だけに偏ることがないように、職種が異なる担当者をつけ、様々な方向から子どもの様子を見ていけるように配慮する事を心がけています。	充実を図るための取り組みとして、強みをさらに伸ばしていくために、専門性を持つ知識や技術の共有に力を入れていきたいと思っています。そのためまず資格者が何をしたいのかを整理し、職員全体に落とし込みを行い、全体へ周知できるよう勉強会を実施していきます。また、年々内容が向上するよう、マニュアルの見直しを行い、人材育成が停滞しないような工夫を実施していきます。
2	全職員での研修や会議を設けています。研修や会議は、職員が抱える療育の悩みについてしっかりと話し合い、意見の交換が出来る場として有効に活用しています。悩みを一人で抱え込まずに解決する場、意見がもらえる場がある事で、子どもたちへの向き合い方が変わる場を変わらずに提供していきます。	会議においては、支援者側の療育での悩みや困りごとを解決する事のみならず、各職種間での知識や技術を向上させていくためにはどうしたら良いかを意識した話し合いを行います。職員全員にアンケートを聴取し、外部講師を招聘することもあれば、職員が交代で講師を務め、“教える側”、“教わる側”など役割が交代することで知識や技術が深まるような工夫も絶え間なく行っています。	勉強会や研修などは単発での実施で終わらせるのではなく、実施する目的や獲得したいスキル、知識を明確にすることで全員の理解が深まるよう設定していきたいと考えています。
3	児童に対して標準化された評価を使用しています。標準化された評価を全員が使用できることで、児童の様子や状況を全職員が把握・共有できています。	悩みのある子どもたちを見ていく中で、どのように現在の状況を把握していくのかは事業所によって異なると思いますが、当法人においては、全職員が研修や会議にて、評価の使用方法、目的・実施、結果からの解釈、またその結果からどのような支援に繋げていくのかを総合して検討していきます。支援についてのノウハウがない方においても1からわかるよう学んでいける機会も豊富にあります。	標準化された評価を全員が正しく使用できるようにしていきます。そのためには使用するマニュアルをより分かりやすくしたり、評価の記入用紙を現場に即して使いやすいようアップデートを行なっています。評価結果を基に、児童の様子を把握し、今後どのような支援を行うのかとう指標を各々が立案していけるよう勉強会や症例検討の機会を設けます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士がつながりを持てるようなコミュニティの作成について検討している課題ではありますが様々な意見があり、そういった場を設定するまでには至っていません。	同じ悩みを共有したい。と臨まれる方もいれば、そうではない方もおられます。保護者様自身が参加の可否を選択し、“今”知りたいこと、お子さまが経験したことがないこと。そんなニーズに応えられるような企画が必要と考えます。当事業所では親子で参加できるイベントを実施しておりますが、保護者様、お子さまからアンケートや口コミを聴取しているわけではないので、必ずしもニーズに沿っているかが不透明ですので多くのニーズに応えられる活動を企画していきます。	当社は2か月に1度「屋外活動」というイベントを実施しています。このイベントは、お子さまが経験したことがないこと、初めて経験するワクワク感の提供を目的としています。今後は保護者様やお子さま宛てに企画のアンケート聴取を検討しています。また、防災知識を学びながら楽しめる運動会や普段の練習成果を発表する発表会などの活動も企画していきます。活動の目的を明確にすることで大人も子どもも楽しみながら、ともに成長を感じられるようなイベントを作っていきます。
2	イベントを行う中で園や小学校といった地域とのつながりや自治体の活動に参加していくという企画が少ない印象であった。	事業所のイベントとして、一般の地域で行われているイベントなどへの参加も検討していますが、日程の調整や児童の状況やお住まいの圏域などを考慮すると全ての利用児童が参加するのは難しい状況であります。各地域で行われている活動においても保護者様に教えて頂きながら情報収集を進めていけるよう努めます。	イベント活動においては、開催地域の選択、参加人数の増枠、イベントを楽しめる年齢などの参加条件の緩和をすることで、より大勢の方々にご参加いただけるよう事前準備や調整を行なっていきます。
3	新規職員に対する事業所内での伝達や業務内容の統一が行いにくい状況がありました。職種間における得意分野の違いや専門用語に対する理解の仕方、また経験などによる実践知識の違いなども挙げられるため、相互理解且つ質の向上に繋げられるよう目指していきます。	当事業所では支援員の所有資格が各々違います。そのため、発達支援を行う際の考え方も異なります。PDCAサイクルを意識して業務にあたっておりますが、個々の理解度合いで伝わりにくさも感じる事があります。法人としてマニュアルを作成し、PDCAサイクルでの業務を再認識できる体制を整えていきます。	保護者様やお子さま、地域連携機関に「高い専門性」を提供できるように努めています。そのためにも、PDCAサイクルに基づく働き方を見直し、事業所内で話し合う機会を設けていきます。SWOT分析などを行い、考え方の共有をし、事業所、個人としての強み・弱み等を明確にした上で今後も皆様に納得していただける療育を実践していけるよう努めます。

**令和7年2月1日よりKOMAキッズ鈴鹿、KOMAキッズ鈴鹿2号館は
HARVEST HOMEとして営業しております。**

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	KOMAキッズ鈴鹿		
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日	～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日	～	令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1日の流れやスケジュールが明確化されており、カリキュラムに沿った療育を提供している。	1日のスケジュールが分かりやすく視覚提示しており、子どもたちが見通しを持って過ごせるように工夫している。カリキュラムに関しては、行事や季節に沿った内容や子どもたちが楽しめるような内容を日替わり週替わりで変更している。	伝達の時間がない時などの急なスケジュール変更等も分かりやすく変わった点などを可視化していく。子ども1人1人が活動に参加しやすいようにスモールステップな段階付けを行い、全員が参加しやすい工夫を心掛けたい。
2	個々に合わせたプログラムを提供している。	1か月に1回は個々の進捗状況を確認し、個別プログラムの立案、変更をしている。	子ども1人1人の状況が具体的に知れるように、各種評価・検査の実施をしていく。子の困りごとに対して根拠があるプログラム提案をしていきたい。
3	日報とは別に、日々の療育内容を記録に残している。	担当制になっているのでその日の子どもの療育内容など細かに記録し変化や成長を把握するツールとして仕様している。	担当スタッフ以外が対応しても、普段と変わらない療育が行えるように申し送りとしての役割を担えるように改善していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事故防止、緊急時対応、防犯、感染対応マニュアルはあるが、新たに入ってきた職員は理解しにくい点があった。	訓練や流れなどをすり合わせは行っているが、自らがどの動きをしても円滑に動けるまでの訓練は行われていない。	職員が増えても、各人の役割把握を行い、有事の際には適切に動けるような訓練をしていきたい。
2	保護者会を開催するも、参加者がいつも限られている。保護者会を充実するために参加者が増えるようにしていきたい。	アナウンス方法が紙媒体のお知らせのみであることや、内容を具体的に説明しきれていなかった部分があるのではないかな。	参加しやすい日時に設定していく。お悩み事や課題設定、交流会内容を明確にしていく。茶話会など各保護者が相互交流し情報交換が出来るような環境を作る。
3	地域住民との交流が少ない。	自治体に所属はしているが、地域の動きやイベント事などを把握できていない。地域住民の方々に施設自体を理解していただいていないように思う。	地域イベント(清掃、祭りなど)への参加をしていきたい。